

令和7年第1回おおい町総合教育会議 議事録

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和7年2月18日(火)
午後3時40分～午後4時47分
- (2) 開催場所 里山文化交流センター 活動室Ⅰ・Ⅱ
- (3) 出席者 中塚町長
菅原教育長、藤原教育長職務代理者
小野義一教育委員、谷口千裕教育委員
田中康介教育委員
- (4) 事務局 田中学校教育課長、岡学校教育課長補佐、
新谷社会教育課長、井関社会教育課長補佐
大上社会教育課長補佐、松本社会教育課長補佐
川嶋大飯図書館・郷土史料館長補佐、川尻学校教育課主査
- (5) 傍聴者 なし
- (6) 協議事項 ①令和7年度おおい町教育方策(案)について
②その他

2 会議発言概要

1 開 会 令和7年第1回おおい町総合教育会議を開会

2 あいさつ

《事務局》

ただいまから、令和6年度第1回おおい町総合教育会議を開催させていただきます。
初めに中塚町長からご挨拶をよろしくお願いいたします。

《中塚町長》

皆さんこんにちは。

午後1時半から会議をしていただいているということで、お疲れのこととは思いますが、
けれども、本日は総合教育会議ということで開催をさせていただきます。

委員の皆様方には公私とも本当にご多忙の中、こうやってお集まりをいただきまして、
誠にありがとうございます。

また日頃より教育行政全般につきましてそれぞれの立場からご助言、或いは十分な得
策などいただき心から感謝をいたします。ありがとうございます。

本日は第1回総合教育会議ということで、おおい町教育方策の見直しにつきまして、
皆様方と活発にご議論、協議をしながら、教育行政がさらによりよいものとなりますよ
うに、活躍をするところがございますので、どうぞご理解の上、ご協力をいただきたい
と思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

《事務局》

それでは議事に進みたいと思いますが、議事進行につきましては、おおい町総合教育会議運営要綱第3条により、町長が議長となりますので、これよりは中塚町長よろしくお願いいたします。

3 協議事項

令和7年度おおい町教育方策（案）について

《資料に基づき事務局が説明》

《中塚町長》

それでは、ただいまの説明に対しましてご意見等ございませんか。

《小野教育委員》

最初に大きな部分の意見交換をしたいと思います。

教育方策で挙げていただいております教育の姿の大きなテーマと下にあるサブテーマ策定の内容についてですが、大きな部分でいうと伸ばす教育というふうに示していただいて、これは人を伸ばすという意味なんだろうがちょっとわかりにくい。何を伸ばすのか、伸ばすという意味合いはちょっとわかりにくい。

町長の考え方と、町の未来を支える人材を育成する、具体的になかなか言えないとは思うものの、単純に人づくりというふうに言うておくとあらゆる方面にいろんな対応に活躍していただける人材というか、人員確保も含めた、非認知能力の高い方を育てていくんじゃないかなというふうに思うが、この伸ばす教育と町の未来を支える人材というところが一致していないような気がしますし、このあたり町長の考えと教育長の考えと、どう位置付けるのか意見交換したい。

《中塚町長》

まず私から言いますと、午前中に会議していたが、以前の大綱の中での文言なんですが、僕も同じように伸ばすというのは何を伸ばすのか、もうちょっと具体的に記載をしたほうがいいんじゃないかという意味合いの意見を言ったところ。そうするとそれがかみ砕いてわかりやすくてそれぞれの、それから後段の部分にもわかりやすい部分が出てくるんじゃないかなあというふうな意味合いからそう申し上げた。

改めて今、小野委員さんの話を聞いてると、確かにそこは明確にある程度こうなってくることによって、よりその教育大綱の目標というか掲げるものが明確になるんじゃないかなということを改めてこう感じているようなところ。

教育長初め、事務方の方で様々な意見をちょうだいしながら、どんなふうに認識をしているのかについて、逆に今この場でまたおっしゃっていただけると、それを掘り下げたり、積み上げたりすることになるのかなと思いますので、まず教育長からそのあたり説明してみてください。

《菅原教育長》

何を伸ばすかということですが、未来を開くってということが、キーワードに使われるんですけども、そのためにはやっぱり人を育てるという教育の役割が大きい。という意味合いから、この教育の姿というのは、10年前の平成28年の大綱の文言を今継続しておりますので、そのまま持ってきたということで、少しその頃とは違った状況の中で、疑問がわいてくるのかなと思っている。

何を伸ばすかということとやっぱりその人、学校で言えば子供たちですし、おこがましいですけども住民の皆様にも成長していただく、そういうことで子供達、住民の皆さんに力をつけてもらう、そういうふうに理解をしています。

どういう人材かというのは、町の未来を支える人材ということで、そうなるためには、個々に伸びていく、成長していただく。

知徳体ではないですけども、そういう力をつけていただくということ。

コミュニティ等々、年代ごとの集団の中で、お互いに尊重し合い、認め合って、協働できるようなそういう力をつけていただく。根本にはふるさとへの愛着そういったものを育てていく、そういうことが、町の未来を支える人材を育成することかなというふうに考えている。

《小野教育委員》

考えていること、方向性は一緒だろうと思う。過ごしやすい町、子供が学校で過ごしやすい、スポーツに打ち込んでいる方がいたり、文化の方で力を注いでいたり、高齢者を支える立場であったり、それぞれいろんな個性があらゆるところで発揮できる、子供も地域と関わり、大人と一緒に活動したり、細かい話ですけども多分一緒のことを思っているような気はするんですが、大きく「伸ばす教育」何か

《中塚町長》

もう少しイメージしやすいように。
ニュアンスは分かる。そのあたりどうですか。

《田中学校教育課長》

先ほど言いました、平成29年策定した時から今までずっと使ってきたものでして、その大綱を基にこの教育方策を定めて、毎年、実行していくというようなことで、また来年度から7年度8年度かけて教育大綱の全面見直しもある中で、その部分を見直していくので、現段階では今の教育大綱に基づいて、このようにしておいてはどうかというようところで事務局は思っております。

《中塚町長》

すべてを包含してしまうと、かえって逆にぼんやりしてしまうという、ピントが合わなくなってしまうということは当然あるので、今の時代に必要な、今回の方策がねらっているところを、少しここの伸ばすというところの表現も、具体的にすることによって、

それが伝わりやすいのであれば、それも検討する必要があるのかなあというふうに、今の議論を聞いていると思うんですけども、1つの課題として認識をしておきたいと思えますし、何か適当な表現の仕方があるのであれば、さらに掘り下げていただければなあというふうに思えますので、その点1つ課題としてよろしくお願ひします。

《川尻学校教育課主査》

補足します。今、少し発言の中にも出ておりましたけども、そもそもの上位計画として、町の第二次総合計画ということがございまして、その中のまちづくりの基本施策として、教育の分野におきましては、ふるさとへの愛と誇りを育み、豊かな交流で向上する町、という基本施策、基本目標がございまして。

この中に、教育分野というものが包含されておりますので、この、第二次総合計画を策定した時に同時に策定をしまして、教育大綱。

この中で、本町が目指す教育の姿というところで、今ここにお示しをしております、ふるさとへの愛と誇りを育み豊かな交流で、と、ここまで一緒なんです。

向上する町を伸ばす教育、という文言に変えて教育大綱を策定しております。

今回この教育方策というのは、この教育大綱にぶら下がる具体的な方策ということでございまして、それを見直すというようなところがございますので、ちょっと技術的な面もございまして、この教育大綱にある本町が目指す教育の姿、これについては現大綱にございまして文言をこの教育方策の中の前文にも、同じ1字1句変えずに置くという技術的なスタイルをとっておるというところがございます。

そういったことから、小野委員のおっしゃることはよくわかりますけれども、そういったちょっと技術的な面もございまして、具体的な内容がなくてわかりにくいというのもよくわかるんですけども、一方では、教育大綱の中でそういった広くとらえているところがございますので、それをそのまま教育方策の中でその具体については、1項前文からさらに、その本文の方に移っていくと、というような体系をとっておるといってご理解をいただきたいと思っております。

今後、来年度予算の説明もあつたかと思ひますけれども、大綱も含めての全面改定という部分につきましては今後取り組んで参りますので、今回のご意見等も反映した内容の見直しということに取り組んでいきたいということございまして、今回のこの7年度教育方策というのはそういった意味においてはちょっと過渡的な内容になっている部分がありますということによろしくお願ひしたいと思ひます。

《小野教育委員》

町の総合計画はこの大綱の策定と同時期にスタートをされているんでしょうか。

《川尻学校教育課主査》

そうです。平成28年。

《小野教育委員》

その町の計画も教育大綱も同じスパンで次に改定ということですか。

《川尻学校教育課主査》

現在の計画については、総合計画も教育大綱も同じ期間で令和8年度までということになってございます。令和8年度が終期となりますので、次期大綱の見直し、あわせまして今日の策定。

《小野教育委員》

非常によくわかる説明で理解できたんですけど、町の振興計画の策定と教育大綱と同じ年に改定されたということですよ。

《川尻学校教育課主査》

そうです。

《小野教育委員》

町の総合振興計画ですが、次に改められるスパンっていうのはいつでしょうか。

《中塚町長》

法の縛りがなくなった。

以前は、各自治体、基礎的自治体が総合計画を作るべきということで、大体10年スパンで更新をかけてきたんですけども、合併後20年ですから第二次おい町総合計画がほぼ終期を迎えるようなスパンになってきたんですけども、法の縛りがないので、今とりわけ基本的な計画として使っているのは、おい町未来創生戦略といいたほうがいいかな、より具体的な、5年ぐらいのスパンで、計画を立ててそれを実行していくというものの方が、中長期でやられる漠然とした相場的なものよりも、より具体的でよろしかろうというようなことで、今はどちらかというところからゆだねて、総合計画第三次のものを現時点で計画をするということは、想定をしてないんです。

今おっしゃっていただいたように、大綱からその中の総合計画の中から、大綱に落とし込んで、大綱から、それを受けて、今回の方策ということですので、根本的に整頓するようなことも考えると、今、川尻くんが答えていただいたようなことになるんですが、下の前文の中で、理解いただければありがたいんですけども、それがやっぱり難しいということになれば、これは課題として認識をしておきたいと思うんですけどそのあたりはどうですかね。

《小野教育委員》

今の説明で、なるほど、そういうことでつけてあるんだなと思った。

《中塚町長》

それでは議題の(2)その他につきまして、委員の皆さんから何かございますせんか。

《谷口教育委員》

小さなことですが、スポーツで県代表として行く時に、本郷駅に旗で名前を掲げているが、小浜は国道沿いで名前とスポーツで、車で通るだけで知らない子でもパッとわかる。ボートで行くんやと分かる。おおい町はあそこだけがもっていない。ラグビーの父兄でもたまたま迎えに行ったから見たけどわからなかったという。せつかく県代表になっているので、ぽ一たるの辺りにどうか。高浜もサニーマートの辺りですごく見やすい。

《新谷社会教育課長》

以前は国道27号の交差点のところに掲げていたが、許可受けずにやっていたので道路管理上、制限がありできないというようなことで、記念にもなるということでのぼりの形で掲示させていただいた。場所についても今後どうしていくかというものもあるが、国道27号線の交差点のぽ一たるの所に電光掲示板があるので、ああいうところにもっと積極的に出していかなあかなという話をしているところ。

それ以外でデジタルサイネージもありますので、そちらの方での表示、いろんなところの表示とかそういうことはしていますので、皆さんに見ていただけるようなところも工夫してやっていけたらと思う。

《井関社会教育課長補佐》

高浜は個人でやっている。後援の方とか有志の方がやってると思う。サニーマートにお願いしてやっている。国道って下手にやると叱られる。飛んでいったりした時の管理など、なかなか国道沿いは張りにくいというところがある。

《田中教育委員》

高浜町役場の前のは

《井関社会教育課長補佐》

施設内なので町が作ってあげている。

《田中教育委員》

おおい町も敷地内に掲げても面白いかなと思った。

《新谷社会教育課長》

総合町民センターも裏の所に掲げることがあったんですが、管理上の問題がありまして取り外したという経緯がある。それも検討はさせてください。

《中塚町長》

いずれにしてもいいことなんですよね。いいことは広く検証する姿勢が皆さんの目に留まらないと意味がない。

《田中教育委員》

励みにはなると思う。

《中塚町長》

今後検討させていただきたいと思います。

《田中教育委員》

給食費3,000円っていう話なんですけど、近隣のところで無料化してる場所もありますので、余裕があるかどうかわかりませんが、余裕がもしあるならば、そういうふうな方向に少しずつ持って行ってあげていただくと親御さんが助かるかなと思います。

《中塚町長》

おっしゃった通りです。それは教育長も僕も方向性は大体同じにしてるのかなと思います。この間も県の方から福井県の当初予算の説明に来てくれたんです。その時に僕は申し上げたんですが、学校給食法という法律の中では、その給食については、保護者負担とする、と明らかに書いてあるんです。その意図はっていうと、経費の負担のみならず、保護者にとって責任といいましょうか、或いはまた応分の負担を求めるといような保護者の負担についても同時にうたってるのかなあというふうにニュアンスは感じ取れるんですけども、その法律がある中で、方々で無償化をしているとか、国においてはもうすでに議論を始めるであるとか、やんちゃなことをしてるわけですね。

明らかに日本の中で、そういったところを議論していただいて同時並行的に、それが法の縛りがなくて、自由にできるであるとか、国がそこはしっかりと交渉するであるとか、お金をしっかり出すであるとかという姿勢に変わらないとだめですよっていうことを県にも申し上げた。

実情として法律が今の時代についていけないというのは、日本があまり動いていないというのが一番ネックになっているということも1つは認識いただくとありがたい。そんな中で、物価高騰してますし、子供さんの人数が増えれば増えるほど負担が重くのしかかるということなので、今回、私どもにとっては少し思い切った、大幅に支援するという形で給食費の助成をさせていただこうということで今回の新年度の予算になっている。

そこをご理解の上で、今後そういった国の議論もしっかりと注視しながら、方向性によっては、そういうふうになりうる可能性も秘めているということでご理解いただくとありがたいかなと思います。

《小野教育委員》

子供食堂ですが、名田庄地域の方で有志の方々が身銭を持ち出し集まって、コミュニケーションを一緒に取れたり、というような事柄で今やったださって、ひと月に1回、ふた月に1回ぐらいですか。こういうことが人を育てる事柄になってると思う。考えて動いてくださって、活躍の場、活動する場を作って、子供たちが喜んでくれて親が喜んでくれて、またコミュニケーションができるという、こういう事柄が大きな意味での教育じゃないかな。何かやることで育つ。何かがあってそれを解決するために、考えて苦労して作り上げて、方策を考えて取り組んで、行政の力もお借りしつつ解決していく。子供食堂をさらに支援していただければなというのが思いです。

《中塚町長》

これは本当に自然発生的な部分と、名田庄地域のコミュニティの濃厚さといひましようか、課題が広く、コミュニティの皆さん方に認識をしていただいているといひますか、そんなところがあって、同時に、私、町長としても、こういった子供食堂的な活動ができないかということをするとか健康課といきいき福祉課の方に投げながら、それが課題の可視化に繋がるだろう。どういうことかといひますと、人が集うことによって、今、ボランティアはなかなか育成できないですよね。育成しようと思っても、行政が、上からこうやってしまいますとなかなか育ってこないということがあって、まず地域課題を可視化することが大事だろうなと思ひまして、子供食堂的な集まりであったりとか、子供から年寄りまでくつろげるような集まりがあるといろんな話の中で、課題を共有したり、お困りごとを可視化したり、そうすると、できることも、それやったらできるかなあというふうな気づきもあつたりとかいひすることで、異世代間の広くそのコミュニティとしての、コロナ渦で萎えていた部分を、活性化をする契機になる可能性があるなあと思ひまして、そういった切り口も含めて何かできないかということを書いてましたら自然発生的にできてきた部分があるので、職員さんもボランティアとして、今言ひました2課についてはですねちょっと取り組んでみようというふうなところもありまして、ただ、双方の方向性が少し違うところもありますので、今はそれぞれがやったださっているということなんです。行政としてせつかくそうやって子供たちのために奉仕の精神でやったださるので、自己負担が生じることは申し訳ないと思ひていまして、労力奉仕という形ならまだしも、実際に身銭を切つてまで食材の購入といひのはちょっと心苦しいと思ひまして、何らかの方策で支援できないかといひことは、今言ひました2課に少し検討をしてもらっているといひのが現状です。今後また方向性によりましては、そういったところもしっかりと手当できるといひなと思ひてますが、行政があまり手を突っ込みすぎると、かえつてその活動自体が萎えてしまつたり、方向性が変わつて当初思つていたのとは違うなといひことで、人が離れていつたりといひようなことも起こり得る可能性はありますのでそこは慎重にやっっていくべきだと思ひてます。

いずれにしても、今後はそういった活動が個々に出てきたり、今は名田庄地域に留ま

っていますけれども大飯地域の中で、そういう芽が生まれてくると本当にいいなと思っています。

《小野教育委員》

高齢者の方にスマホの使い方を教えるということを含めて、社協とも連携してスマホ活用をしてもらおう、例えば、写真の取り合いをしてそれをやりとりするようなゲーム遊びとか、出前の方がよっぽど有効なような気がする。

活用の仕方、使い方を聞きに来てくださってという場を作ることに以上。

《新谷社会教育課長》

その辺は楽しく、社協の方にも高齢者にどんな需要があるのか聞いたりしている。

《井関社会教育課長補佐》

来てくださりだけでなく、例えば集まり、総会とかがあればそのあと 30 分時間もらえませんかという形で、こちらから行って教える、こんな使い方できますよ、みたいなのもやれたらなということ今検討している。来てくださって言うてもなかなか来にくいところがあるので、こちらから相手側に入っていきようなこともできないかなんかということは考えています。

《新谷社会教育課長》

出前的なやつも、来年度事業の中でやっていきたいと思っています。テーマを堅苦しいものじゃなくて、コミュニケーションの手段となるような、使い方についての講座というような形にしていきたい。

《中塚町長》

ある自治体で 80 歳以上の方にスマホを活用していただくコミュニティが広がり寿命が延びる、長生きすると推奨しているところがある。

80 歳以上のスマホの活用率が伸びてきているというような事例も DX フェローの方のお話で聞いたことがありますので、身近にどうやって活用するかっていうことと、実際に楽しめる部分をしっかりと共有しながら、いかに活用率を伸ばしていくかということを考えるのが必要かなと思っています。

一番心配なのは、特殊詐欺とか、いろんなものに引っかかるその媒体としてのスマホの危険性みたいなものも随分言われてますので、そのリスクを下げてあげるような指導も同時に並行的に必要なというふうには思っていて、検討していただきながら順次進めていただきたいなと思っています。

《田中教育委員》

留学のことなんですが、中学生は町としての事業あると思うが、高校生大学生が留学に行きたいと言うことで、何か助成はあるのか聞きたい。

《新谷社会教育課長》

直接的に当てはまるような助成とか補助金はない。

《田中教育委員》

自分の子がアメリカの方に行こうかなど計画を立ててるんですけども、物価単価、通常の1.3倍、4倍ぐらい高くなってきてまして。少しでもそういう助成があれば。

《川尻学校教育課主査》

進学サポートについては実は12月議会で議決をいただいて、新年度からはその外国海外大学或いは外国の日本校に対しての、いわゆる、就学については進学サポートの対象ということで拡大をさせていただく予定をしていますから、それはいわゆる大学に入学するという、そういう留学でして、進学サポートではそちらの方面のカバーは新年度からさせていただく予定です。

《新谷社会教育課長》

今、中学生の海外派遣事業という形でやってますけど、対象は中学2年生で、ある程度人数は町の方で決めています、将来的なあり方として、他の市町とかやっているとありますが、自分でこういうふうに行きたいなということに対しての助成金とか、そんな形に切り換えていくのも1つの方向なのかなという検討はしているところ。

《田中教育委員》

そういうのがあったらありがたいだろうし、興味のある方も多いですよ。

《井関社会教育課長補佐》

自分で考えてこういうことを学びに行きたいんだっていうのをやってるところもあるって聞くので、そういうのも面白いだろうなと内部では話している。

《新谷社会教育課長》

中学生海外派遣事業というのも、定員募集で毎年決めてやっていますが、定員に達しない状況もありますので、ある一定の期間があり学校の方にもご負担をおかけする部分もあったりするので、そのあり方については検討してるところです。

《菅原教育長》

総合教育会議は協議の中でよりよい教育政策の実現に向けて進めていくための会議ですけども、先ほどの教育委員会で、予算の説明を事務局からあったと思うんですけども、来年度、事務局の体制整備でありますとか、機能強化拡充に向けて、やりますとか、将来展望に立った、教育施策でありますとかっていうことに関しまして、しっかり予算つけていただきました。お礼を申し上げますとともに、今後も、ご支援を賜りたい

と思いますし、教育に対するそういう気持ちであるとか、そういった方針をしっかりと聞かせていただきたいなというふうなことを思っております。

委員の皆様には、そういう状況の中で、今後もこの町の、子供たちもそうですし、住民の皆さんへのそういう施策がさらに充実しますように、ご協力をいただいきたいと思っております。

《中塚町長》

日本のGDPに占める教育費の比率は先進国の中で最下位で今までずっとやってきたんで、ここに来て、高校の無償化でありますとか、これは法律のほうの議論だと思っておりますけども、そんなことも議論されていたりとかします。

もう少し言いますと、日本という国はそもそも、技術立国ですから、1996年にバブルが崩壊をして、そのあたりから、コストカットといっていわれる空白の30年と言われるものが始まりました。

その結果何が起きてるかっていうと、皆さん方が今、苦しんでおられる、景気低迷であったり、日本の経済力の低下というふうには何となくイメージをしておまして、それを裏打ちするのが、日本のいわゆる論文の査読率の低迷なんです。

だから、優秀な論文トップ上5%に入るような論文の査読率ってのは非常にこう、全世界で生まれて、その中から新たな技術であったり、いろんなものが前に進んでいくというふうに聞いてますけれども、日本の論文のトップ5、トップ10というのが、5%、10%に入るような論文が少なくなってきたり、査読率も低くなっているというのが現状だというふうに聞いてます。

そうすると、総じて、狭い国、島国日本の資源の無い中で、そういったその技術が慣れていくということは決してよろしくはない、ということが僕の頭のどっかに引っかかっておまして、それだけじゃないんですけれども、おおい町で生まれ育った子供たちが、しっかり自分を伸ばせるよう、自分の持てる能力をしっかりと伸ばせるようにという意味から、タブレットの導入でありますとか、様々なICT化も含めて、菅原教育長もですね、AIを導入した、ドリル教材の提供でありますとか、いろいろ工夫をしながら、必要な手だてはできるだけ講じていこうというのが、僕とか教育長の方針であるのかなというふうに思ってます、そういう意味では、頑張って、他市町に負けないようにという無理があるのかもしれませんが、しっかり取り組んでいきたいというふうには思っているところです。

4 閉 会 令和7年度第1回おおい町総合教育会議の閉会。